

第33回 鶴彬忌川柳大会

最優秀句賞

世相切るペンが正義へ揺るがない 表よう子

第24回 鶴彬川柳大賞 (選考結果は8頁に)

鶴彬大賞

音痴かも知れないけれど反戦歌 池田よし一

今年も鶴彬忌
墓前/碑前祭
2つ川柳大会も盛況



9月16日墓前祭(浄専寺)



かほく市民川柳祭

皆んなで選んだ
今月の秀句

カジノ誘致人の不幸に頬被り
内閣に客寄せパンダ出現し

馬頭琴
寺内徹乗

賭博禁止の国にカジノ法が成立。また、安倍改造内閣に入った大臣、国連環境会議に出かけたはいいが環境政策を問われ沈黙。安倍政権の絶対矛盾、デタラメとも云う。(周)

例会案内

10月例会

10月24日(木)

投稿締切

20日(日)

課題「視」

3句以内

自由吟

5句以内

自選句、自解筆もよろしく。

川柳互選

課題吟「出」

自由吟

選句について

連作・自選句

おたより

ほのぼの川柳

MUSIC

鶴彬川柳大会結果と様子

プロレタリア文学運動の盲点⑪

仏教と戦争そして暁鳥敏

シベリア抑留の記録⑫

故・秋山茂氏の手記

編集後記を兼ねて

2 3 4 5 6 7 7 8 9 12 16

9月の 川柳互選

◆課題吟「出」

(互選) 一人3句以内吐

3	戦後史を 洗い出せと 天の声	広助	9	靖国へ出向く徒党が金バッチ	亀公子
3	官邸で国民蔑視の自画自賛	林	9	いつの間に移動という名の武器輸出	白真弓
2	出番だと思っひとりの手を上げる	ダン吉	8	出征を見送る母の瞳奥	白真弓
2	出る杭になろう不安はあるけれど	ダン吉	8	反省を知らぬ内閣お出ましに	林
2	出産をひかえた妻におもてなし	高	8	出発た外交デビューをセクシーに	高
2	まず足を出そうそれから考える	ダン吉	7	グレタさん 国連に出て世界へ喝!	宏
2	打ちたくも出た杭がない政治屋さん	未知子	7	目減りした年金よそこに膨らむ出費	高
1	令和にも命差し出す兵事の係	馬頭琴	7	駆け込み買い出来ない民の10%	白真弓
1	日向子さん八打差出して笑みゴルフ	宏	7	基準値を緩め安全証明書	立東爺
1	委員会陰でべ口出しほくそ笑む	馬頭琴	7	増税で出るは怒りかため息か	宏
1	出鼻くじく思いやりが壁になり	大峰	7	少女像から出火炎上する日本	徹乗
	役人Aよくぞ出て来た怪文書	立東爺	6	お婆ちゃん駆け込み出費で化粧品	未知子
	岐阜県に決意の顔出し「護郷隊」	馬頭琴	5	東電事故ジワリ出て来る汚染水	立東爺
			5	CO ₂ 排出グレタ泣かすな目を覚ませ	未知子
			5	メガバンク破産出来ない大借金	亀公子
			5	出稼ぎの出面ピンハネして使っ	大峰
			4	平然と尻尾出さない嘘答弁	広助

10	戦争の 出番を待つて 海を埋め	広助	2	消費税れいわに期待年金者	広助
10	手なずけたメディアに顔出し自画自賛	林	2	曇る日もあろう力を蓄える	ダン吉
12	出所した戦犯不戦に異を唱え	徹乗	2	取り上げた思いやり予算メキシコで壁造り	大峰
14	内閣に客寄せパンダ出現し	徹乗	2	改造の「疑惑のデパート」不信買う	林
◆ 自由吟 (互選)					
	一人5句以内吐				
	溜息のたびに力が抜けていく	ダン吉	3	官邸は三権分立介入す	宏
	あの方を選んだのは誰でせう?	未知子	3	不要なコーン買いつランプの機嫌とり	徹乗
	遠雷にさつと手を打て政界人	白眞弓	3	有害残土の行方も知らず新幹線	馬頭琴
	環境相辺野古の海に眼をくれず	亀公子	3	風向きを気にして僕が消えている	ダン吉
1	束の間のたかが「多数派」ではないかダン吉	大峰	3	Eアシア守るはハワイとグアムの島	立東爺
1	農薬入りの餌日本の黒牛ソツポ向く	馬頭琴	4	天災も 人災も増す 再稼働	広助
2	北の鉄路波しぶき浴び客を待つ	未知子	4	爆買と軍靴の響きザ・ストップへ	宏
2	豚でもない生き地獄とはこのことだ	立東爺	4	再稼働 人命よりも核神話	宏
2	頑張つて来たが情けない国となり	立東爺	4	一強が 民主政治を破壊する	広助
2	曹操に倣つて豚を殺処分	立東爺	4	日の丸を 五輪の時に 旭日旗	広助
			4	高御座は 神話に根ざす 即位の礼	広助
			4	責任をとらない国で再稼働	徹乗
			5	店頭で買ひ物詐欺をする政府	林

- 5 大臣も芸能粹があると知る 白眞弓
- 5 東電の無罪判決司法死せり 宏
- 5 迫り来るドローン戦争の前夜 亀公子
- 5 安倍外交「韓国たたき」で目先変え 林
- 5 一等国に防弾リュックを背負う子ら 亀公子
- 5 不自由展まさに自由の名において ダン吉
- 5 AIで人を選別する魔物 馬頭琴
- 5 安倍政権残る引き出し五輪だけ 徹乗
- 6 博徒の寺銭美しい町を建て直す 大峰
- 6 隣国といざこざ起こす「外交」力 林
- 6 良心に怒り折り込み一句詠む 立東爺
- 6 閣僚が疑惑の重ね着する政権 林
- 7 敗戦の責任問えと地下の霊 白眞弓
- 7 シベリヤの遺骨迷って化けて出る 大峰
- 7 じわじわと首絞め凶る基礎年金 馬頭琴
- 7 特養が終の棲家になる令和 亀公子
- 8 房総の青き葺の声を聞け 白眞弓

選句について

選句は難しい。川柳の機微を感じる力がないと、「いい句」を見逃し「ボツ」にしてしまう。

「和」では以前、ボツになったものは会報に載らなかったのですが、他人から見るとボツでも、作者は力一杯詠んでいるので、載らないのは「失礼」ですよね。「和」では、2年ほど前から投句されたものは全部載せるようにしています。

川柳の歴史をみると、この「選句」が極めて重要。川柳の創生期、二人の人物が「川柳」を創造したとも言えるのです。柄井八右衛門と呉陵軒可有の二人。

江戸中期、多くの『万句合』まんくあわせという集まりができ、句を募集。点者てんしゃ（選句者）が、高点者に景品を付けました。柄井八右衛門という点者が現れ、選句の公平さと巧みさで人気を博しました。没する33年間に二六〇万句を集めたという。柄井の「号」が川柳で、これが文芸川柳の名称となりました。

もう一人、呉陵軒は、柄井の『川柳評万句合』から佳句を抜粋編集し『誹風柳多留』はいふうやなぎだるを発行。一冊の句集となり、その面白さが一挙に評判を高め、大

8 内閣改造台風なんぞ知らん顔

徹乘

8 嫌韓の煽り促す内閣府

白眞弓

8 駆け込んで使いたいのが空財布

立東爺

9 不自由展政治がくつわはめに来る

亀公子

9 「拝謁記」 反省無しで再軍備

宏

10 カジノ誘致 人の不幸に頬被り

馬頭琴

連作・自選句集

◆ 前田大峰

改造より遺す事が国のため

改造の論功賞 前科者ばかり

プーチンに習ったか韓国合併の話

◆ 中野林

改憲と四選にらんで組閣する

四選の快音聞きたく続投へ

ブレーク。これが川柳発祥となりました。古川柳はいふうやなぎだる『誹風柳多留』として岩波文庫に集録。版を重ね、いつでも入手可能。江戸社会を知る歴史、社会学の資料としても貴重な遺産です。

こうした「選句の力」をみると、到底われわれ浅学の身では単独で「いい句」を見つけることが難しい。そこで同人の互選という選考方法が広く各地の川柳会でおこなわれてきました。

俗に「いい句 うまい句 めだつ句」という呼び方があります。例えば「いい句」の例、

転がったとこに住みつく石一つ 大石鶴子

これは、第一回全日本川柳大会（東京1977）大賞作品です。課題が「一」で、加盟吟社主宰者一五四人の互選でした。選者が個人だったら見落とされていたかもしれない。「目立つ句」は「巧くても一過性となりがち。時事句に多く見られます。それに比べ、社会批判の句でも鶴彬の作品には「事件」をテーマにした句は意外に少なく、事の本質を探求して一般化、普遍化して句にまとめている。鶴彬は川柳初心者にも学ぶことが多い。（編集子）

スネにキズ持たねば就けぬ大臣席
責任を取ったことなし取る気なし

米兵器爆買いどころか狂い買い

民衆の嘆き届かぬ永田町

停電も断水だって自己責任

停電にローソク灯す敬老の日

抜けちゃった知事の腰にもブルーシート

◆ 上川 枯芝 かれしば

講演会好みの話に安堵する

偽善でも命まもるに区別なし

狂牛に蹴散らされたる花畑

戦死者の骨拾う指に怒り満つ

稲束に落穂も稲と声を上げ

ことわりを示せば逆上敵にされ

おたより

◆ 岩佐ダン吉さんより

あかつき川柳会の創立者のひとり壇満敏さんが死去されて一年半年余、やっと本会の事務所（大阪市天王寺区玉造本町）に「敏文庫」（仮称）の設置作業がスタート。敏さんは鶴彬をはじめ川柳関係図書の膨大な蒐集家…、いつの日か全国の鶴彬ファンにも――。

◆ 中野 林さんより

誤記や不鮮明が残念！です。

誤：官邸で国民蔑視の自画、自賛

←

正：官邸で国民蔑視の舌を出し

【編集部より】 中野林さま、申し訳ありません。

今後、最終校正に力を入れます。またFAXで

のやりとりですから、次回から文字を大きくして文字も太くしたいと思います。



柄井川柳（八右衛門）
 竜宝寺に辞世の句碑が立つ
 （台東区蔵前）

…碑文…
 木枯や
 跡で芽を吹け
 川柳

ほのぼの川柳

運動会 晴れてうれしい我がむすこ 神田 鯛
 かけつこで目にもとまらぬ一等賞 神田 鯛
 もう一度希望の湧いた白内手術 北の山
 くつちやねさん八面六臂七十路で おにとん
 あの時に角を曲がったからね君といろ ひろ

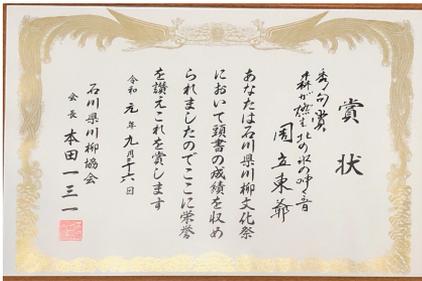
Mini NEWS

◆9月26日、石川県川柳文化祭があり、「和」や高松川柳会他、県内の多くの柳社が参加、150名ほどの集まりでした。そして大変なことが起きました。小生（周立東爺）が秀句賞に選ばれました。石川県川柳協会から表彰状と記念品を頂戴しました。（周）

課題「燃える」

森が燃え北の氷の呻く音 周立東爺

アマゾンやカナダの森林火災、北極海の氷塊の崩壊。国連でのグレタさんの必死の叫びは大人社会への批判。



上：表彰状
 下：トロフィー

鶴彬川柳大賞選考結果（鶴彬を顕彰する会）

【鶴彬大賞】

音痴かも知れないけれど反戦歌

池田よし一（白山市）

【優秀賞】

ここ一番眠ったふりをする国旗

浜木文代（白山市）

笑えない話ばかりで笑い皺

鈴木良一（上尾市）

マル秘の秘「長生き税」という秘策

坂範子（金沢市）

【佳作】

令和まで痛み引きずる拉致家族

新谷和隆（能美市）

その時の都合で記録出沒し

野村昌弘（平塚市）

沖繩はいまだ昭和の波しぶき

樫村曄（ひたちなか市）

虐待の親に絵本の読み聞かせ

中島恭子（小松市）

消費税上げて買い足す戦闘機

松本利昭（長野県）

【小学生の部】

優秀句 笑う顔想像している試合前

三井鼓二郎（小6）

秀句 あのなみだ努力のしづく次がある

長原 月乃（小6）

秀句 顔の中自分のきもちあふれてる

上野愛勇来（小6）

秀句 あなたからもらった笑顔わすれない

素野百々花（小6）



鶴彬川柳大会の様子



鶴彬川柳大会の会場前



かほく市が鶴彬情報



墓前祭（浄専寺）



碑前祭（高松歴史公園で）



白尾の巨石群を東京から視察

プロレタリア文学運動の盲点 ⑪

仏教と戦争そして暁烏敏

周 立東爺

あけがらす はや
暁烏敏は偉人か？

戦時中の仏教が果たした責任を考えるために再び
暁烏敏について書きたい。

ご当地金沢でも「郷土の偉人」暁烏敏の標準的
理解（評価）は次のようなものである。

「暁烏敏（1877-1954）は、松任市の明達寺に生
まれた真宗大谷派の僧である。明治時代は宗門の禁
書であった『歎異抄』を初めて世に広め、仏教の近
代化に尽くした清沢満之の信仰をつたえ、仏教雑誌
『精神界』を編集し、執筆者として活躍した。大正
時代には、自己の性欲の懊悩の中から、独立者とし
ての人間の解放を課題とし、年の三分の二は全国を
行脚して信徒たちに語った。昭和時代前期には、世

界の宗教と哲学と文学とを涉猟し、自らも世界を
旅し、「浄土」としての国家の在り方を求めた。晩
年は全くの盲目となり、鑑真にも似た風貌には、人
間の深い精神性が体現されている。（松田章一・「こ
だま」149号）

前号に紹介した暁烏敏の戦争責任は微塵も出て
こない。暁烏の言葉を確認しておきます。

「戦争は人間を浄化せしめるもの。」

「戦争は人間浄化の重大な神業である。」

「戦ひのために捨てる命は国の命として永遠に
生きるのである。」

断片的に紹介したが、暁烏が戦後、自らの戦争
責任をどう思ったか？ 自身の書いたものがある。

「東京の知人からの手紙にかういふことが書いて
あつた。

東京の某宗教新聞の主筆某君や京都の某大学学長の某君が、涙骨（またにゐるいこつ真溪涙骨——引用者）や暁鳥は裏切者だというてゐる、と書いて来た。これがどんな意味だかわからないでゐたところ、この頃或る雑誌に、暁鳥は戦争中盛んに戦勝を祈願してゐながら、終戦後になると又反対に平和を祈願してゐる。戦争中は、天皇は現人神などいうておきながら、休戦になつたら人間天皇のお姿を讃仰してゐる。彼には一貫した信念はない。要するに彼は時勢の便乗者に過ぎないと書いてあつた。この評を読んでなるほど裏切者だと言はれるのはこの点だなどいふ事に気がついた。

私は生来戦争はきらひで、若い時から平和運動のために東西を馳せ廻つて話して来た。併しこの間にも、無理な弾圧を加へて来るものがあるならばこれをはねのけるだけの戦意はもつてゐた。昭和十六年十二月八日に宣戦の詔勅を拝

した時に、戦争の是非を言うてゐるひまはなかつた。詔を承けては必ず謹め、とある『十七条憲法』に従つて戦争完遂の為に努力するより外はなかつた。尤もその間にあつても、無理な戦争をしない様に当路に対して内面的に注意をすることを怠らなかつた。昭和二十年八月十五日終戦の御詔勅を拝した時に、負けた、といふ気持よりさきに、戦争がすんでやれやれよかつた、といふ気持が強かつた。今迄枉まげられてゐた私の生活方向が再び真つすぐな方に向けられたやうな気がした。その後は平和日本の建設に心から精進する様になつた。平和愛好者が勅令によつて戦争に従事してゐたが、勅令によつて戦争が止まつたことをきいてよろこんだ。戦ふのも勅により、和するのにも勅による。平和を愛しながら戦争の勅に従つて戦争に従事してゐた私が、勅令によつて戦争をやめ、平和の促進に従事せしめられたこ

とはありがたいことである。私には裏も表もない。雨の日には読み、晴れた日には耕すといふ生活の外に別の物が働いてゐない。」

これを読んで、昭和26年、真宗大谷派宗務総長になった暁烏が郷土の偉人といわれる宗教者だとは到底思えない。たんなる弁のたつオヤジのようである。過去を振り返って、反省もなければ戦争犠牲者への追悼の気持ちも感じられない。時勢に迎合し、無批判に弁を弄していたかのようなのである。仏教関係者からみると「生死や時代を超越した偉大な宗教家だ」と評する方もあるいはおられるかも知れない。

仏教界からの批判

仏教界の中からも暁烏敏へ批判は出ている。次の一文は強烈な批判である。

「暁烏を中心とした近代教学の輩がやってきた

ことは天皇制を擁護し日本の民族主義、国家主義、国家神道の支配の下に浄土真宗を取り込むことにほかならず、親鸞様の『神祇不拜、じんぎふはい国王不礼』こくおうふれいの思想の対極にあるものだからです。戦前、教団が、説教師がおっしゃるような『まことの信心』を浄土真宗の門徒七〇〇万戸（当時の総人口の三分の一）に徹底しておれば、日本の民族主義の増長を防げたはずだし、戦争がおこることもなかった。また三〇〇万人といわれる戦時の日本人犠牲者のみならず、三〇〇〇万人といわれるアジア諸国民の戦争犠牲者は出なかったはずだと思っからです。戦後何年も経った後、なぜ、背教者のなかの背教者、思想界におけるA級戦犯ともいえるべき暁烏のような者を東本願寺が最高指導者に招いたのか、また現在、東本願寺は暁烏らの思想を『偽りの信心』と認識しているのか？」

こうした批判や疑問に対して、本部からはな
んの返答もないそうである。

暁鳥は「従つて戦争完遂の為に努力するより
外はなかつた。」と書くが、戦争を拒否した僧侶
に、たけなかしやうげん うえきてつじやう竹中彰元、うえきてつじやう植木徹誠（植木等の父）、古くは
たかぎけんみやう高木顕明などが弾圧され、迫害された僧侶も多い。
暁鳥敏がなぜ真宗大谷派宗務総長に上り詰め
たのか？ 暁鳥の弟子に次の証言がある。

「先生のお姿、そのにこやかな しかも威厳に
満ちた顔、凜として響き渡る声、それは後にな
つて知ることになる 「こうげんぎぎ光顔巍巍々」という經典の
言葉そのものでした。」（児玉暁洋）

どうやら、仏教の教義や知識とは無関係で、暁
鳥の風体、話し方など「人間の魅力」が会う人
をとらえ、引き込んでいるのではないか？ そ
う考えると妙に納得する。そのたぐいの例は日
本社会の隅々に見られるからである。（続く）

シベリア抑留の記録

12

「在ソ三年 生と死のドラマ」

故・秋山茂氏の遺稿より

昭和二十年の暮、鉄華部隊第二營の副官だった私
は満鉄化学工場でソ連軍のゲベウに捕へられ、シベ
リア送りとなった。ソ連国境を越え、輸送列車は白
一色の肱野を西へ西へと三日走ってバイカル湖を
過ぎ、極寒のイルクツク市に着いた。郊外の一角の
収容所に入り、森林伐採の作業に従事した。酷寒の
十二月。七〇万の日本兵捕虜の一人であった。重労
働と食糧不足、隊内での下克上、イジメなどで多く
の仲間が犠牲になった。在ソ三年。いよいよ帰国す
る事になった。

シベリヤの春は一度にやって来る

一九四六年（昭和二十一年）の冬、私達の中隊
はイルクツク市南方の畑の中にある半地下式の

倉庫を改造したゼムリアンカに寝起きして、五百米ほど先の市街に近い建築場で作業していた。或る日、突然猛烈な吹雪（ブリザート）に襲われ直ちに「作業を中止し各人ゼムリアンカに帰へれ」という命令が出された。然し吹雪のもの凄さは言語に絶し、一米離れた相手の顔が見えない程で、総員約七十名のうち真つ直ぐゼムリアンカに辿り着いた者は約三分の二の四十七名残り、二十三名余りは方向感覚を誤り、数時間経って吹雪が静まってからぼつぼつ帰って来たことがあったが、作業現場から畑の中の一歩道距離は僅かに五百米。常識的には考えられないことだ。吹き付ける雪嵐は前を向いて立って歩けるといふものではなく、背を曲げて這うように前の人の足跡を見失うまいと必死の思いで進むのだが、前の人の姿は見えず、足跡は直ぐかき消され、瞬間孤独感に陥ったものは大体そこ

で方向感覚が失われているようで、この恐ろしい吹雪がこの地方では冬季間、一、二回は避けられないようである。

口 春季

シベリヤの春は一度にやって来る。昨日まで万物寂として死んだように静かであった中が五月半ばの声と共に明るくなり、先ず一番多い白樺が一斉に青緑色の美しい若葉に変わり、今迄雪割草や岩香蘭が雪の下から僅かに頭をもたげていた地表に一斉に名も知れぬ野草が逞しく頭を出しはじめ、残雪が消えはじめると何処からともなく小鳥が渡ってくる。春が短いせいだろうか樹液の流動が日本内地とは比較にならぬ程激しく、直径三十糎位の白樺の樹皮を斧ではぎ下に飯盒をあてて置けば二、三時間で飯盒に半分くらい美しい透明な樹皮がたまり、われわれは好んでこれを飲んだが、これは六月が最も

効果的であった。

ハ 夏季

冬季間僅か南に移動した太陽は春の訪れと共にだんだん北に戻って来て、七月、八月頃には更に北上するが我々の頭の真上までは来ず、頭上近くから又少しずつ南に移って行く。太陽が頭上近くになった頃が夏である。けれども暑さに耐えられぬという程のものではなく、直射日光はかなり暑いが一歩木陰に入れば寧ろ肌寒い感じの涼風があって湿気が少ないから全く快適で然も冬季とは反対に昼が長くて夜が短く、午後八時過ぎまでうす明るいからと思へば午前三時前後にはもう夜が明けはじめ、長い一日の労働が始まり真夏でもアンガラ河の水は非常に冷たく三十分と入っていることは出来ないし、ソ連人が河で泳ぐ姿は見たことはなかった。水が冷たいのは上流山岳地帯の氷雪がとけ満水となって流れるからである。

二 秋季

秋も春と同様極端に短く、三年の間に一度だけ僅かではあったが八月二十七日に降雪を見たことがあった。九月に入ると夜間の気温は二度から三度位にさがり十月になれば凍結が始まる。だからシベリヤの井戸の内部には夏でも内壁が厚い氷の輪になっているのが見られ、十月には時々降雪があり、気温も氷点下となる。

2、食と捕虜

私が入ソした翌年の春頃、その頃は未だ日本人捕虜も大分元気だった。四二四大隊の本部付将校に戸川大尉という年配の召集将校が居た。彼は相当の硬骨漢らしく、軍刀こそ吊っていないが常に襟章のついた将校用の軍服を着て作業場を歩いていた。そんなある日兵隊達が作業から帰ってゼムリアンカの外でソ連人のじゃがいも

と靴下などと交換したり、畑から掘ってきたり
或いは又、塵捨場から拾って来たり、いろいろ
の手段で入手した馬鈴薯を思いおもいに飯盒や
空缶などで蒸しているのを見て彼は、

「貴様らそれでも日本人か！ ごみ溜めを漁り
ロスケの捨てた薯を喰らうとはなんたる態だ！
恥を知れ恥を……」

と怒鳴ったものである。

ところが二度に亘り酷寒の冬を漸く越した
一九四七年（昭和二十二年）の初春、イルクック
郊外のラーゲルで見た戸川大尉は既に以前の面
影はなく、気の毒な程老衰化が目立ち、兵隊達
が相変わらず手に入れた馬鈴薯を炊いている傍
らで兵隊達から分けて貰っていたがシベリヤの
捕虜に関する限り、「食べた者は生きたが食べな
い者は死ぬ」という自然の道理がそのまま行われ
「武士は喰わねど高楊枝」とか、或いは「渴して

も盗泉の水は飲まず」といった言葉が通用するよう
な生やさしいものではなかった。というのもソ連政
府の捕虜に対する給与（第六定量）は別表に示すよ
うに決して悪いものではなかったが、大隊や中隊に
配属されている十余名の警備兵の給与を含めての一
括支給で、彼等が好きなものを好きなだけ先取りし
た残りが捕虜の給与となるから良い筈はなく、殊に
パンをはじめ油、肉、砂糖、卵、粉などの減少は甚
だしく、これを強硬に主張すれば作業面に反発があ
るため、空腹で痩せ細り乍らも敗戦の苦悩として耐
えねばならなかった。

一九四七年（昭和二十二年）だったと思うが。わ
れわれのがイルクック市郊外で建築作業中、炊事責
任者の武内少尉（満軍中尉・長野県出身）が視察に
来た。

（次回に続く）

編集後記を兼ねて

◆前月号この欄に書いた関東大震災の時に発生した福田村事件をメモしておきます。千葉県東葛飾郡福田村（現・野田市）で起きた利根川沿いに休憩していた行商団のまわりを興奮状態の自警団二〇〇人が取り囲み、「棒やとび口を頭へぶち込んだ」「銃声が二発聞こえた」「バンザイの声が上がった」。犠牲者は、妊婦や幼児をふくむ10名。行商団一行の話す方言（讃岐弁）が千葉県の人には聞き慣

れず事件となった。殺人罪に問われた事件の中心人物は出所後村長となった。昂奮した日本人の狂気である。◆高松の墓前祭、碑前祭、川柳大会などに東京鶴彬顕彰会から五氏が参加。懇親会では「東京に顕彰碑を」と盛り上がった。◆例会に新しい人が二人参加。次回はもうお一人が参加予定。◆「互選に疑問あり」と投句されていない方がおられます。互選方式は17年11月例会にて総意で決まり、「民主的でない」とずっと続いてきました。（周）

10月例会「案内」（毎月第4木曜に変更！）

- ◆例会 10月24日（木） ◆投稿×切：20日（日）
- ◆課題 「視」 3句以内 ◆自由吟：5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、ご意見などもお願いします。川柳に関する資料などもご紹介下さい。
- ◆句報を持参下さい。例会で話し合います。
- 投稿 FAX（076）254-0762
- メールアドレスは下段へ。

郵送は
下段住所へ。

「和川柳社」会報
会員募集しています！

同人：4000円/年
投句/購読：2000円/年
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30（渡辺 寛）

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」